

舞舞の北條秀司

2004年11月1日～12月11日（日・祝日閉室）

於：湘南校舎 11号館図書館展示室

東海大学付属図書館

## 北條秀司年譜

年 月 日	事 項
明治35年 11月7日	大阪市西区北堀江西長堀において、父飯野市松、母おひさの次男として誕生。本名は飯野秀二。
大正6年 4月	天王寺甲種商業学校に入学。在学中宝塚歌劇の公募脚本に一等当選。
大正9年 4月	設立直後の日本電力株式会社に入社。
7月20日	当選脚本「コロンプスの遠征」が宝塚大劇場で上演され脚光を浴びる。
大正13年 4月26日	関西大学専門部文学科（国漢文専攻科）に入学、昭和2年同大学を卒業。
大正15年 11月29日	日本電力東京建設所へ転任、上京する。
昭和3年 5月	会社が買収した箱根登山鉄道株式会社に出向。以後、11年間箱根の開発事業に関与する。
9月	小田原町十字に移居。
昭和4年 1月4日	幼馴染みの武田美和子を大阪より迎え結婚。
昭和5年 2月9日	娘・美智留誕生。
昭和8年 4月29日	中村武羅夫の紹介を得て、麹町元園町の劇作家岡本綺堂を訪い、入門を許される。
昭和11年 6月2日	岡本綺堂の正式な門下生、舞台社同人となる。
昭和12年 1月31日	処女作「表彰式前後」（新国劇、島田正吾・辰巳柳太郎主演）が新橋演舞場で上演される。
昭和14年 3月	岡本綺堂の死（3月1日没）を契機に会社を退社し、以後劇作に専念。
4月1日	東京市麻布筈町に移る。
昭和15年 5月	劇作家長谷川伸を二度目の師と仰ぎ、同人主宰の劇作研究会「二十六日会」に入会する。
昭和16年 2月	処女戯曲集「閣下」の成果により第4回新潮社文芸賞（第二部・大衆文芸賞）を受賞。
昭和19年 4月1日	情報局より日本文学報国会の総務部長を委嘱される。
昭和20年 4月3日	東京大空襲で麻布の大部分が灰燼に帰し、箱根強羅に疎開する。
8月15日	敗戦の玉音放送を、小田原箱根地方文化芸能人連盟結成式場の小田原駅前広場で聞く。
昭和21年 4月	小田原市十字に転居する。この頃、劇団こゆるぎ座の若者達と交遊が始まる。
昭和22年 6月	「王将」（辰巳柳太郎主演）が有楽座において上演絶賛を博す。
昭和23年 5月29日	小田原から大船に移る。
昭和26年 4月18日	日本演劇協会が設立され、久保田万太郎会長とともに専務理事に選任される。
10月5日	「霧の音」（島田正吾主演）が明治座で上演、芸術祭賞を受賞。
昭和27年 2月28日	「王将終篇」・「霧の音」で第4回毎日演劇賞を受賞。
昭和29年 3月	大船地内の現住所へ移居。
昭和30年 3月22日	第6回NHK放送文化賞を受賞。
昭和32年 11月	KRテレビドラマ「姫重態」で芸術祭文部大臣賞を受賞。
昭和39年 4月11日	久保田万太郎没（昭和38年5月6日）後、空席になっていた日本演劇協会二代目会長に就任。
昭和40年 4月3日	『北條秀司戯曲選集』全8巻の成果により昭和39年度・第15回芸術選奨文部大臣賞を受賞。
昭和41年 2月5日	『北條秀司戯曲選集』全8巻の成果により第17回読売文学賞を受賞。
昭和48年 11月9日	第21回菊池寛賞を受賞。
昭和50年 1月14日	新作歌舞伎「春日局」の成果により昭和49年度・第3回大谷竹次郎賞を受賞。
昭和56年 4月20日	国際演劇協会日本センター会長に就任（昭和60年4月15日迄。以後、名誉会長）。
昭和59年 9月2日	毎日新聞日曜版へ「演劇太平記」の連載を開始する（平成2年8月26日迄、全305回）。
昭和62年 11月3日	国の文化功労者に推される。
平成3年 6月8日	脳溢血で倒れ、湘南記念病院に入院するが、2ヶ月足らずで自主退院。
平成5年 3月4日	最後の新作「信濃の一茶」（緒形拳主演）が新橋演舞場において上演される。上演創作戯曲226篇となる。
平成5年 7月	健康上の理由により日本演劇協会会長職を辞任（以後、終生の名誉会長）。
9月21日	「日本商業演劇史」の研究により、母校の関西大学より文学博士号が授与される。
平成8年 5月19日	肝不全のため自邸で死去。93歳。正四位勲二等瑞宝章を授与される。墓所は、鎌倉市植木龍寶寺。

## 展示にあたって

北條秀司氏は昭和12年、新国劇上演の『表彰式前後』で鮮烈なデビューを果たしました。生涯で上演された創作戯曲は226本、再演を含めると700本を越え、放送劇の脚本も数多く発表されています。のちに映画や歌謡曲にもなった代表作『王将』を世に送り出し、現在でも多くの舞台作品が上演されています。平成8年5月19日に93年の生涯を終えましたが、昭和を代表する劇作家・演出家の一人であるといえるでしょう。

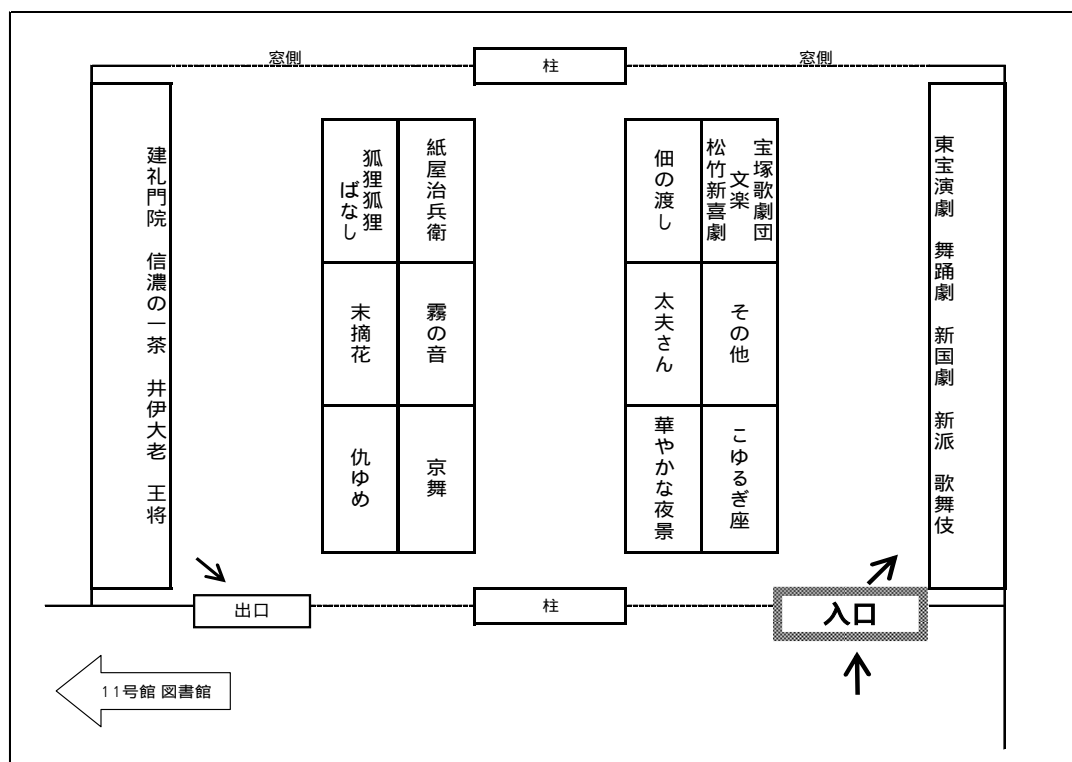
平成15年9月、縁あって本学図書館では故北條秀司氏の旧蔵資料をご遺族の北條美智留氏から寄託を受ける事となりました。同年11月には、本学学園史資料センター協力の下、展示会『劇作家北條秀司展』を開催しました。本学に所蔵する北條秀司氏の著書やゆかりのある方々の絵手紙・色紙類を交え、北條秀司氏の人物像にせまる展示を試みて、ご好評をいただきました。

今回『北條秀司の舞台』として展示会を開催する運びとなりましたが、前回以上に北條秀司氏への理解を深めるべく、寄託資料の中から、舞台関係を中心とした資料（ポスター・台本・生原稿・パンフレット・舞台写真等）をご紹介します。日本の演劇界に多大な功績を残した「舞台人北條秀司」を知っていただく良き機会になれば幸いです。

展示にあたって数多くの貴重な資料をご提供いただいた北條美智留氏、ご協力いただいた松竹株式会社・社団法人日本俳優協会・東宝株式会社・西川流三世家元西川右近・緒形拳事務所・小田原市立図書館に厚く御礼申し上げます。

東海大学付属図書館

### < 配置図・順路 >



# 歌舞伎

近世初期に発生。江戸時代の文化が育てた日本固有の演劇。先行の舞踊・音楽・科白劇などの諸要素を集大成した、庶民的な総合演劇として今日に至る。北條秀司の新作歌舞伎は、昭和27年（1952）の「狐と笛吹き」が端緒。以降、「未摘花」「建礼門院」など数多く発表した。

## 1. 浅間大名 [ポスター]

昭和36年12月1～26日 / 出演: 坂東養助、林又一郎 / 於 京都南座  
若い殿様が参勤交代の道中で、自由を求めて浅間の宿から抜け出し、レジスタントのご乱行のあげく、身分違いの遊女と結ばれるという喜劇。文楽人形劇、宝塚歌劇で上演された「浅間の殿様」を歌舞伎劇に仕立てたもの。

## 2. 北條政子役の中村歌右衛門と打合せ [写真パネル]

昭和47年4月  
(左) 中村歌右衛門、(右) 北條秀司

## 3. 奥の細道 [舞台写真パネル]

昭和48年6月  
(左) 実川延若の俳人路通、(右) 二世中村鴈治郎の松尾芭蕉

## 4. 淀君情史 [自筆原稿]

昭和57年5月3～28日 / 出演: 尾上梅幸、尾上菊五郎、中村勘九郎 / 於 歌舞伎座  
豊臣秀頼が秀吉の実子ではなく、大野治長の子であるとする稗史を元にした作品。尾上梅幸・菊五郎父子のために書き下ろした。

## 5. 浅間大名 [上演台本]

昭和35年11月1～26日 / 出演: 市川猿之助、中村時蔵、守田勘弥 / 於 歌舞伎座  
初演台本。作品解説は1. を参照。

## 6. 千利休 [上演台本]

昭和45年4月1～26日 / 出演: 坂東三津五郎、中村芝翫 / 於 歌舞伎座  
豊臣秀吉の権力に屈しない千利休の反骨ぶりを描いた作品。脱稿年次は昭和15年だが、何度も上演企画されながらも、なぜかその都度中止となり、執筆後30年を経てようやく上演された。初演台本。

## 7. 北條政子 [上演台本]

昭和47年4月2～26日 / 出演: 中村歌右衛門、二世中村鴈治郎 / 於 歌舞伎座  
歴史上、悪女の代表のように評されている北條政子を新しい視点からながめ、政子を時代の被害者として描いた作品。中村歌右衛門のために書き下ろした。初演台本。

## 8. 花魁草 [上演台本]

昭和56年2月1～25日 / 出演: 尾上梅幸、尾上菊五郎、市村羽左衛門 / 於 歌舞伎座  
吉原女郎と若い大部屋役者の哀話。尾上梅幸・菊五郎父子に書き下ろした作品。初演台本。

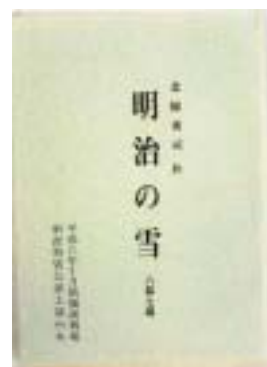
# 新派

明治中期の角藤定憲・川上音二郎らの新演劇が発展し、伊井蓉峰らの活躍により定着した大衆演劇の一派。写実的な現代劇を演じて、明治30年代、歌舞伎(旧派)に対して新派と称されるようになった。以後、井上正夫・花柳章太郎・初代水谷八重子らの名優を輩出した。北條秀司は新派の発展に貢献し、「太夫さん」「佃の渡し」など多くの財産的演目を残した。

9. **花魁草 / 明治の雪 / 女優 [ポスター]**  
平成8年10月2～23日 / 出演:二世水谷八重子、波乃久里子、平幹二郎 / 於 新橋演舞場  
3作とも北條秀司作品。この公演をまたず、北條秀司は他界したので、急遽追悼公演となった。
10. **女優 [舞台写真パネル]**  
昭和44年11月  
(左)水谷良重(現八重子)の松井須磨子、(中)伊志井寛の島村抱月、(右)大矢市次郎の学僧
11. **明治の雪 [舞台写真パネル]**  
昭和41年11月  
(左)初代水谷八重子の樋口一葉、(右)森雅之の半井桃水
12. **新派群像 [著書]**  
昭和51年5月12日  
北條秀司の新派俳優論をまとめたもの。
13. **花魁草 [上演台本]**  
平成8年10月2～23日 / 出演:英太郎、市川染五郎、春本泰男 / 於 新橋演舞場  
作品解説は8. を参照。歌舞伎劇として初演されたものを劇団新派が再演した。
14. **明治の雪 [上演台本]**  
平成8年10月2～23日 / 出演:波乃久里子、平幹二郎 / 於 新橋演舞場  
明治の女流作家樋口一葉と半井桃水との恋愛を描いた。水谷八重子のために書き下ろした作品で「水谷八重子十種」に選出されている。昭和41年11月、新橋演舞場で初演。
15. **女優 [上演台本]**  
平成8年10月2～23日 / 出演:二世水谷八重子、平幹二郎 / 於 新橋演舞場  
大正中期の演劇黎明期、奔放で情熱的、ひたすら恋と芝居に駆け抜けた芸術座女優松井須磨子の誕生から死の直前までを描いた作品。水谷良重(現八重子)に書き下ろした戯曲。昭和44年11月、新橋演舞場で初演。



資料13より



資料14より

# 新国劇

大正6年（1917）、沢田正二郎が結成した劇団。大衆性があり、歌舞伎と新劇の中間に行く国民演劇を目指し、リアリズムに基づく「国定忠治」などの剣劇を創案。沢田の死後、辰巳柳太郎・島田正吾の二本柱が人気を支えたものの、昭和62年（1987）解散。北條秀司とは深い関係にあり、「王将」3部作、「霧の音」などを上演した。

16. **軍属 / だんじり囃子 [ポスター]**

昭和19年1月1～25日 / 出演：島田正吾、辰巳柳太郎、野村清一郎 / 於 帝国劇場  
「軍属」は島田正吾、「だんじり囃子」は辰巳柳太郎に書き下ろした作品。

17. **続王将 [ポスター]**

昭和25年3月2～21日 / 出演：辰巳柳太郎、初瀬乙羽 / 於 京都南座

18. **松川事件 [舞台写真パネル]**

昭和34年2月

(中央)島田正吾の弁護士 ほか / 裁判史上空前の難事件として長い間争われてきた松川事件を描いた作品。係争中の裁判事件を劇化するという全く前例のないケースだけに、反響も千差万別だった。

19. **「だんじり囃子」の演出 [舞台写真パネル]**

昭和50年3月

(左)北條秀司、(右)辰巳柳太郎の老隠居

20. **表彰式前後 [チラシ]**

昭和12年1月31日 / 出演：島田正吾、辰巳柳太郎、小川虎之助 / 於 新橋演舞場  
「表彰式前後」は処女上演作品。

21. **軍属 / だんじり囃子 [パンフレット]**

昭和18年12月1～26日 / 出演：島田正吾、辰巳柳太郎、野村清一郎 / 於 帝国劇場  
解説は16. を参照。

22. **風雪二十年 [パンフレット]**

昭和17年12月2～25日 / 出演：島田正吾、長島丸子、辰巳柳太郎 / 於 東京宝塚劇場

23. **山がら物語 [パンフレット]**

昭和18年4月2～26日 / 出演：島田正吾、長島丸子、辰巳柳太郎 / 於 帝国劇場

24. **マニラ亭 [パンフレット]**

昭和18年7月1～27日 / 出演：島田正吾、久松久世子、辰巳柳太郎 / 於 東京宝塚劇場

25. **マニラ亭 [パンフレット]**

昭和18年7月1～27日 / 出演：島田正吾、久松久世子、辰巳柳太郎 / 於 東京宝塚劇場

26. **山鳩 [上演台本]**

昭和51年3月4～26日 / 出演：辰巳柳太郎、波乃久里子 / 於 新橋演舞場  
辰巳柳太郎に書き下ろした作品。昭和30年10月、明治座で初演。

27. **だんじり囃子 [上演台本]**

昭和40年9月2～26日 / 出演：辰巳柳太郎、大山克巳、香川桂子 / 於 明治座  
辰巳柳太郎に書き下ろした作品。昭和18年12月、帝国劇場で初演。

# 舞踊劇

舞踊を中心に展開する劇のこと。日本舞踊の西川流二世家元西川鯉三郎は、舞踊の大衆化を目指し、劇的要素を多分に加えた誰にでも理解される新作舞踊劇に取り組む。それは北條秀司の劇作理念に通じ、両者の合作は「名古屋をどり」「東をどり」といった舞踊会において発表された。その代表作は、「いとはん」「仇ゆめ」など。

## 28. 源氏物語 匂宮の巻 [ポスター]

昭和40年4月1～25日 / 出演:老松、春乃、染福 / 於 新橋演舞場  
第44回東をどりのために書き下ろした作品。「東をどり」とは、東京新橋芸妓の春秋2回の定期舞踊会の呼称。舟橋聖一と共同で「源氏物語」の舞踊化に取り組み、前半を舟橋の「光源氏の巻」、後半を北條秀司が担当した。

## 29. 女親分 [ポスター]

昭和47年9月8～24日 / 出演:西川鯉三郎、西川司津、西川鯉次郎 / 於 中日劇場  
博打と喧嘩に生きる男勝りの女親分が、こともあろうに恋をし、そして失恋するというユーモラスな舞踊劇。第25回名古屋をどりのために書き下ろした作品。「名古屋をどり」とは、日本舞踊の大衆化をテーマに、毎年9月に開催する名古屋西川流の長期舞踊公演。

## 30. 花影抄 [舞台写真パネル]

昭和33年9月  
(左)西川鯉三郎のあざみ、(右)西川右近の花比古

## 31. 女親分 [舞台写真パネル]

昭和47年9月  
(左)西川喜久の子分、(右)西川鯉三郎の姐分

## 32. 浄土曼荼羅 [自筆原稿]

昭和57年4月3～4日 / 出演:二世中村鴈治郎、中村扇雀(現鴈治郎)、朝丘雪路 / 於 知恩院三門  
京都知恩院三門で演じられた法然を顕彰する舞踊劇。浄土宗の開祖、法然上人源空の生誕850年祭の記念行事として催されたもの。

## 33. 浄土曼荼羅 [上演台本]

昭和57年4月3～4日 / 出演:中村鴈治郎、中村扇雀(現鴈治郎)、朝丘雪路 / 於 知恩院山門  
解説は32. を参照。

## 34. 天地開闢 [上演台本]

昭和33年10月31日～11月26日 / 出演:市川寿海、中村富十郎 / 於 大阪新歌舞伎座  
「古事記」に材をとった舞踊劇。大阪新歌舞伎座のこけら落としのために書き下ろした。

## 35. 花影抄 [舞台写真アルバム]

昭和33年9月7～28日 / 出演:西川鯉三郎、西川鯉次郎 / 於 名古屋御園座  
芸に生き抜いた女の半生を描いた舞踊劇。第12回名古屋をどりのために書き下ろした作品。

## 36. 女親分 [パンフレット]

平成2年9月8～19日 / 出演:西川右近、西川まさ子、西川鯉之祐 / 於 中日劇場  
作品解説は29. を参照。第43回名古屋をどりにおける再演時のもの。



# 東宝演劇

昭和7年（1932）、阪急電鉄の総帥小林一三による東京宝塚劇場の設立に始まる。小林は誰にでも楽しめる国民演劇の創造を提唱した。その実現は、菊田一夫の企画による洋楽を基調とした和製ミュージカル、長谷川一夫が主軸の東宝歌舞伎（純歌舞伎にあらず）等によってなされた。一方、松竹の歌舞伎独占に対抗した、八世松本幸四郎らの東宝劇団による歌舞伎興行もあった。北條秀司の代表作は、「比叡嵐し」「狐狸狐狸ばなし」など。

## 37. 秋草物語 [ポスター]

昭和32年8月3～29日 / 出演：中村勘三郎、中村扇雀（現鴈治郎）、市川中車 / 於 芸術座  
幕末、信州の若僧大雲が、野心家の浪人岩淵に唆されて、京へ出て勤王隊の隊長になるが、岩淵に裏切られ、10年後故郷に帰ると、恋人のお咲は人妻、岩淵は死んだことにされているという筋。劇作家仲間で東宝重役の菊田一夫に依頼され執筆した作品。

## 38. 夜明け [ポスター]

昭和41年10月1～28日 / 出演：松本幸四郎、市川中車、市川染五郎（現松本幸四郎） / 於 帝国劇場  
若き日の武田信玄を描いた新作歌舞伎。帝国劇場開場記念公演のために書き下ろした作品。

## 39. 「秋草物語」の打合せ [写真パネル]

昭和32年7月  
（左より）中村扇雀（現鴈治郎）、北條秀司、中村勘三郎

## 40. 寝白粉 [舞台写真パネル]

昭和43年3月  
（左）長谷川一夫の筆屋信吉、（右）中村勘三郎の芸者おそめ

## 41. 秋草物語 [上演台本]

昭和32年8月3～29日 / 出演：中村勘三郎、中村扇雀（現鴈治郎）、市川中車 / 於 芸術座  
作品解説は37. を参照。

## 42. ドクトル机籠之助 [上演台本]

昭和47年2月3～28日 / 出演：森繁久彌、藤岡琢也、草笛光子 / 於 東京宝塚劇場  
北條秀司が実際に命懸けで体験した盲腸炎手術を扱った作品。松竹新喜劇に書き下ろした「手術」を改題したもの。

## 43. 梅ごよみ [上演台本]

昭和46年1月2～31日 / 出演：長谷川一夫、山田五十鈴、藤純子 / 於 東京宝塚劇場  
長谷川一夫に書き下ろした作品。第27回東宝歌舞伎において上演された。

## 44. 寝白粉 [上演台本]

昭和59年1月2～29日 / 出演：山田五十鈴、林与一、曾我廼家鶴蝶 / 於 東京宝塚劇場  
長谷川一夫と中村勘三郎のために書き下ろした作品。昭和43年3月、歌舞伎座で初演。

## 45. 好色一代男 [パンフレット]

昭和35年5月2～29日 / 出演：長谷川一夫、水谷八重子、中村扇雀（現鴈治郎） / 於 東京宝塚劇場  
長谷川一夫に書き下ろしたミュージカル作品。第7回東宝歌舞伎において上演された。



# 宝塚歌劇団・文楽・松竹新喜劇

## 宝塚歌劇団

兵庫県宝塚市に本拠を置く女性だけの劇団。大正2年（1913）、阪急電鉄の総帥小林一三が創始。レビュー、ミュージカルなどを上演。北條秀司は学生時代に熱狂。大正9年（1920）、室町銀之助の筆名で投稿した作品が脚光を浴びている。「恋河童」「燃える氷河」が代表作。

## 文楽

大坂の人形浄瑠璃芝居。大坂において義太夫節を地とする人形芝居は竹本座に始まるが、その後いくたびかの盛衰をへて大正期には文楽座がただ一つの存在となり、文楽はこの芸能自体を意味するようになった。

## 松竹新喜劇

昭和23年（1948）、二世渋谷天外・藤山寛美らが結成した松竹傘下の関西の喜劇団。戦前の曾我廼家五郎劇・松竹家庭劇の流れを汲む。笑わせながら、最後には泣き所を持ってくる独特のスタイルで人気を博した。北條秀司の代表作は、「堀江川」「文の助茶屋」。

### 46. 臙夜源氏 [自筆原稿]

昭和36年1月1～31日 / 出演:春日野八千代、神代錦 / 於 宝塚大劇場  
宝塚歌劇団星組に書き下ろした作品。

### 47. 燃える氷河 [上演台本]

昭和35年4月1～29日 / 出演:春日野八千代、淀かほる、南悠子 / 於 東京宝塚劇場  
宝塚歌劇団花組に書き下ろした作品。

### 48. 華やかな夜景 [パンフレット]

昭和60年5月3～27日 / 出演:藤山寛美、四条栄美 / 於 大阪中座  
昭和12年、新派の井上正夫主演で初演されたものを、松竹新喜劇が再演した。

### 49. 浅間の殿様 [上演台本]

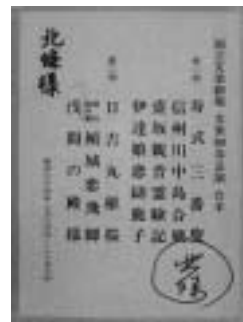
昭和64年1月3～25日 / 出演:竹本伊達大夫・豊竹咲大夫(浄瑠璃)、吉田文吾・吉田玉松(人形) / 於 国立文楽劇場  
後に宝塚歌劇、歌舞伎劇としても上演された。

### 50. 文の助茶屋 [上演台本]

昭和37年11月1～25日 / 出演:渋谷天外、曾我廼家鶴蝶、酒井光子 / 於 大阪中座  
松竹新喜劇に書き下ろした作品。後に劇団新派でも上演された。



資料48より



資料49より

## その他

51. **波止場の風 [上演台本]**  
昭和19年8月5～6日 / 出演:小沢栄太郎、東野英治郎 / 於 国民新劇場(旧築地小劇場)  
北朝鮮の旅館が舞台で、父娘の偶然の邂逅を描いた作品。日本移動演劇連盟の委嘱を受け執筆。俳優座の第1回試演会で初演。本年の7月、両国シアターXにおいて納谷六朗主演で再演された。
52. **ミュージカルコメディ 朧夜ばなし [自筆原稿]**  
昭和40年1月3～28日 / 出演:大川橋蔵、岡田茉莉子、北條きく子 / 於 明治座  
狐の娘おこんが人間に恋をするという歌舞伎ミュージカル。大川橋蔵の東映歌舞伎のために書き下ろした作品。
53. **朧夜ばなし [上演台本]**  
昭和40年1月3～28日 / 出演:大川橋蔵、岡田茉莉子、北條きく子 / 於 明治座  
作品解説は52. を参照。
54. **冷凍部隊 [ポスター]**  
昭和24年8月31日～9月12日 / 出演:千秋実、内田研吉 / 於 三越劇場  
外蒙奥地の日本人捕虜収容所が舞台で、戦争によって人間性が如何に露骨に出てくるかを追求した作品。新劇の劇団薔薇座のために書き下ろした。

## こゆるぎ座

劇団こゆるぎ座は、昭和21年（1946）1月、小田原在住の演劇を愛好する学生達を中心となり結成された。神奈川県内で最も古いアマチュア劇団で、長年の演劇活動が評価され、神奈川文化賞を受賞している。劇団創立期には、当時小田原に居住していた北條秀司が大きな役割を果たした。北條戯曲は、「丹那隧道」など8作品が上演されている。

55. **滝口入道 [自筆原稿]**  
昭和21年9月14～15日 / 出演:井上和男、加賀美理子 / 於 小田原御幸座  
高山樗牛の小説「滝口入道」を朗読劇化したもので、こゆるぎ座第1回公演のために書き下ろした。
56. **滝口入道 [上演台本]**  
昭和21年9月14～15日 / 出演:井上和男、加賀美理子 / 於 小田原御幸座  
解説は55. を参照。
57. **丹那隧道 [上演台本]**  
昭和51年10月16～17日 / 出演:林博、曾我仁彦、関口秀夫 / 於 小田原市民会館  
東海道線熱海、三島間をつなぐ丹那トンネル掘削工事の苦難を描いた作品で、昭和17年4月、前進座で初演。こゆるぎ座創立30周年記念・第24回公演において上演された。
58. **恋文 [ポスター]**  
昭和26年1月20～21日 / 出演:吉田千太郎、峰尾文江、太田俊郎 / 於 小田原市中央公民館  
老父が家に働いている女に以前送った恋文が偶然発見されて、子供達の間で賛否の論争が起こるという筋。小田原地方で活動していた劇団城都、劇団さがみ、劇団こゆるぎ座の3劇団で結成した小田原地方演劇連盟主催公演において上演された。

## 華やかな夜景

毎夜の宴会続きに幫間(ほうかん)の如き役を勤め、家庭へも帰れぬ安来という中年の社長秘書が、妻しづ子のヒステリーに悩まされながらも、生活のために努力をする。それを、夫が楽しく遊興していると勘違いをするしづ子であったが、その場に乗り込み、安来だけはではない多くのサラリーマンの悲哀を実見するのであった。

### 59. [井上正夫略歴]

大正14年1月1日

出典：『俳優名鑑』(杉岡文楽堂編集・発行) / 「華やかな夜景」は、井上正夫に書き下ろした作品。昭和12年11月、明治座で初演。

### 60. 北條秀司宛井上正夫絵入書簡

昭和13年1月31日

第1幕の「今夜は久し振りに五十番で支那料理を食って…」という台詞の一部改訂を求めた書簡。井上正夫の鼻筋の洋食屋中西の名前を入れるよう懇願している。

### 61. 華やかな夜景 [舞台写真]

昭和12年11月

(左)井上正夫の秘書安来、(右)市川紅梅の芸妓うらら / 出典：北條秀司著『新派群像』(柘出版社、昭和51年)

### 62. 華やかな夜景 [舞台写真]

昭和22年6月

(左)三益愛子の妻しづ子、(右)井上正夫の秘書安来 / 出典：北條秀司著『新派群像』(柘出版社、昭和51年)

### 63. 華やかな夜景 [上演台本]

昭和45年3月3～27日 / 出演：緒形拳、阿部洋子、中田三一郎 / 於 新橋演舞場

新国劇退団後、緒形拳初の舞台公演。当時の劇評には、「久しぶりの緒形拳の持ち味がよく出た。雑然とした宴会の場が面白く、若者達とお茶漬をかつ込む姿がいかにも哀れだった」とある。

## 太夫さん

戦後の京都島原の遊郭宝永楼が舞台。伝統の申し子のような女将おえいが、騙されて引き取った田舎娘の喜美太夫を、一人前の太夫に仕立て上げることに執念を燃やす。そして、戦後初めて復活された太夫道中で立派になった喜美太夫の姿を見て、おえいは涙を催すのであった。

### 64. [「太夫さん」関係書簡]

昭和29年4月2日

新派の名女形花柳章太郎、劇作家川口松太郎、青木ハル(京都島原青木楼女将)の書簡。

### 65. 太夫さん [上演台本]

(年次不詳)

「太夫さん」は、新派の花柳章太郎に書き下ろした作品。昭和30年11月、明治座で初演。

### 66. 太夫さん [チラシ]

平成9年12月2～26日 / 出演：波乃久里子、藤山直美、名高達男 / 於 新橋演舞場

## 佃の渡し

佃島に生まれ育った姉妹の話。姉のおきよは赤坂の待合の養女にもられ、幸せに暮らしている。一方の妹お咲は、気の勝った性分で子供のように純真だが、その汚れなさが逆に罪を犯させ、自ら川へ身を投げて死んでいく。

67. **佃の渡し [チラシ]**  
平成7年12月3～25日 / 出演:水谷八重子、島田正吾、伊井義太郎 / 於 新橋演舞場  
「佃の渡し」は、新派の花柳章太郎に書き下ろした作品。昭和32年12月、新橋演舞場で初演。
68. **佃の渡し [チラシ]**  
昭和62年2月1～25日 / 出演:水谷良重(現八重子)、菅原謙次、花柳武始 / 於 新橋演舞場
69. **佃の渡し [舞台写真パネル]**  
昭和32年12月  
(左)花柳章太郎のお咲、(右)大矢市次郎のおでん屋仙吉
70. **佃の渡し [上演台本]**  
平成4年10月1～25日 / 出演:水谷良重(現八重子)、島田正吾、花柳武始 / 於 新橋演舞場
71. **佃の渡し [上演台本]**  
昭和48年11月1～25日 / 出演:水谷良重(現八重子)、菅原謙次、花柳武始 / 於 新橋演舞場
72. **佃の渡し [上演台本]**  
昭和55年6月1～25日 / 出演:水谷良重(現八重子)、菅原謙次、花柳武始 / 於 大阪新歌舞伎座

## 紙屋治兵衛

貞淑な世話女房だが、夫としては近寄り難い女房おさん、ヒステリックでしつこいが、会わないではいられない遊女小春という二人の女に挟まれて、歯痒いくらいに頼りない治兵衛は、騙されて借金を背負った挙げ句、ついには小春と心中する。

73. **「紙屋治兵衛」演出風景 [スナップ写真パネル]**  
(年次不詳)
74. **紙屋治兵衛 [上演台本]**  
平成3年4月2～25日 / 出演:平幹二郎、波乃久里子、水谷良重(現八重子) / 於 大阪新歌舞伎座  
「紙屋治兵衛」は、長谷川一夫に書き下ろした作品。昭和36年5月、東京宝塚劇場で初演。第8回東宝歌舞伎において上演。
75. **紙屋治兵衛 [上演台本]**  
平成4年10月1～25日 / 出演:三世中村鴈治郎、波乃久里子、水谷良重(現八重子) / 於 新橋演舞場
76. **紙屋治兵衛 [パンフレット]**  
昭和54年8月19日～9月24日 / 出演:中村扇雀(現鴈治郎)、波乃久里子、水谷良重(現八重子) / 地方巡演
77. **紙屋治兵衛 [パンフレット]**  
昭和49年1月2日～2月5日 / 出演:長谷川一夫、淡島千景、山田五十鈴 / 於 東京宝塚劇場

## 霧の音

信州の山小屋が舞台。妻子のある植物学者が土地の娘と恋仲になるが、娘は恋が成就せぬものと観念して、5年目ごとの再会を手紙に約して失踪する。そして両者は山小屋に会するが、戦前戦後の激しい時代は二人の境遇にも色々の変化をもたらし、女の死で二人の恋は結実せずに終える。

### 78. 霧の音 ひとり芝居 [パンフレット]

平成9年5月29～30日 / 出演: 島田正吾、五大路子 / 於 新橋演舞場

新国劇の島田正吾が、平成元年の自宅での試演会以来、毎年上演してきた「ひとり芝居」の9作目。91歳の舞台出演ということで話題になった。

### 79. 霧の音 [上演台本]

昭和58年8月24日～9月6日 / 出演: 島田正吾、五大路子、吉霧音彦 / 於 三越ロイヤル・シアター  
三越ロイヤル・シアターという小劇場での再演ということで、新たに仕立て直した台本で上演された。

### 80. 霧の音 [上演台本]

昭和31年8月3～24日 / 出演: 島田正吾、香川桂子、辰巳柳太郎 / 於 歌舞伎座  
「霧の音」は、新国劇の島田正吾に書き下ろした作品。昭和26年10月、明治座で初演。

### 81. 霧の音 [チラシ]

昭和58年8月24日～9月6日 / 出演: 島田正吾、五大路子、吉霧音彦 / 於 三越ロイヤル・シアター  
解説は79. を参照。

### 82. 霧の音 [パンフレット]

昭和58年8月24日～9月6日 / 出演: 島田正吾、五大路子、吉霧音彦 / 於 三越ロイヤル・シアター  
解説は79. を参照。

## 京舞

京舞井上流の家元片山春子（三世井上八千代）は老いてますます壮健、その生き方は磊落飄々（らいらくひょうひょう）としているが、芸に関しては鬼より恐い。内弟子の愛子は、一途な精進が認められ、春子の孫博通の嫁に迎えられた。春子の死後、愛子は周囲の懇望で四世家元を襲名する。京舞に生涯を捧げ、京舞の心を伝えて生きる二代の家元の物語。

### 83. 京舞 [上演台本]

昭和62年12月3～26日 / 出演: 水谷良重（現八重子）、波乃久里子、花柳武始 / 於 国立劇場大劇場  
「京舞」は、新派の初代水谷八重子、花柳章太郎に書き下ろした作品。昭和35年4月、明治座で初演。

### 84. 京舞 [上演台本]

平成13年7月5～29日 / 出演: 水谷八重子、波乃久里子、花柳武始 / 於 新橋演舞場

### 85. 京舞 [パンフレット]

平成13年7月5～29日 / 出演: 水谷八重子、波乃久里子、花柳武始 / 於 新橋演舞場

### 86. 京舞 [上演台本]

昭和41年4月2～26日 / 出演: 二世中村鴈治郎、中村玉緒、片岡孝夫 / 於 大阪中座  
二世中村鴈治郎・中村玉緒父娘の共演が話題となった。



87. 京舞 [舞台写真パネル]

昭和35年4月

(左)水谷八重子の内弟子愛子、(右)花柳章太郎の老家元春子

## 仇ゆめ

京都島原の遊女に思いを寄せた壬生野に棲む狸が、踊りの師匠に化けて言い寄るが、本物の師匠や遊女屋の亭主に化けの皮をはがされ、散々な目に遭わされる。しかし重傷を負いながら遊女のもとへ再び現れ、その真心に絆された遊女の膝の上で往生するのだった。遊女に恋心を抱いた狸の奮闘を描いた悲喜劇。

88. 仇ゆめ [上演台本]

平成12年6月27～28日 / 出演:中村勘九郎、波乃久里子、中村橋之助 / 於 名古屋御園座  
十七世中村勘三郎十三回忌追善舞踊会と銘打ち、中村勘九郎が、父勘三郎の当たり役に挑戦した。

89. 仇ゆめ [上演台本]

昭和41年6月29日～7月3日 / 出演:西川鯉三郎、中村勘三郎、長谷川一夫 / 於 日生劇場  
初演台本。初演は、西川鯉三郎、中村勘三郎、尾上松録、長谷川一夫の共演が話題となった。本年の8月、歌舞伎座において中村勘九郎主演で再演された。

90. 「仇ゆめ」道具帳下絵 5枚

昭和41年

初演時の道具帳。

91. 壬生野 [自筆原稿]

昭和40年12月25日

「仇ゆめ」の原型「壬生野」の自筆原稿。北條秀司が所属した舞踊劇劇作家集団「花の会」発行の同人誌『舞踊劇』において発表された。

92. 仇ゆめ [パンフレット]

平成7年9月9～20日 / 出演:西川右近、西川あやめ、西川鯉右、西川鯉之祐、西川陽子 / 於 中日劇場  
二世家元西川鯉三郎十三回忌追善・第48回名古屋をどりにおいて再演。

93. 仇ゆめ [チラシ]

平成13年9月22日 / 出演:中村勘九郎、波乃久里子、中村福助 / 於 嘉穂劇場



資料89より



資料100より

## 末摘花

身分高い姫でありながら不器量の末摘花は、荒れ果てた邸でひたすら光の君を待ちわびている。光の君から愛人花散里に宛てた文が、末摘花のもとに誤配されるが、いち早くその真相を知った侍従の奔走で再会が現実のものとなる。末摘花は再会によって身のほどを知る。そして、かねてから求婚されていた盲目の受領源雅国の元へ嫁ぐ決意をし、光の君の後ろ姿に永遠の別れを告げる。

### 94. 末摘花 [上演台本]

昭和60年5月3～26日 / 出演: 山田五十鈴、中村扇雀(現鴈治郎)、成田菊雄 / 於 京都南座  
「源氏物語」に取材した一連の北條秀司作品は、舟橋聖一作品と対照して、「北條源氏」と称された。「末摘花」は、「北條源氏」の第4作目。昭和30年11月、歌舞伎座において中村勘三郎主演で初演。

### 95. 末摘花 [上演台本]

平成13年12月1～25日 / 出演: 中村勘九郎、坂東玉三郎、市川團十郎 / 於 歌舞伎座

### 96. 末摘花 [ポスター]

平成13年12月1～25日 / 出演: 中村勘九郎、坂東玉三郎、市川團十郎 / 於 歌舞伎座

## 狐狸狐狸ばなし

江戸の末期。手拭染屋の浮気な女房が、生臭坊主との愛欲から、二人の邪魔になる役者上がりの亭主伊之助を殺すが、何度殺しても生きて戻ってくる。狐と狸の化かし合いのような男と女の痴話を描いた喜劇。

### 97. 狐狸狐狸ばなし [チラシ]

平成14年9月2～26日 / 出演: 中村勘九郎、中村福助、中村橋之助 / 於 博多座  
森繁久彌、山田五十鈴、中村勘三郎、三木のり平に書きおろされた作品。東宝の重役菊田一夫の依頼により執筆。昭和36年2月、東京の宝塚で初演。

### 98. 狐狸狐狸ばなし [チラシ]

平成5年1月2～30日 / 出演: 芦屋雁之助、山田五十鈴、平幹二郎 / 於 東京宝塚劇場

### 99. 狐狸狐狸ばなし [上演台本]

平成14年9月2～26日 / 出演: 中村勘九郎、中村福助、中村橋之助 / 於 博多座

### 100. 狐狸狐狸ばなし [上演台本]

平成5年1月2～30日 / 出演: 芦屋雁之助、山田五十鈴、平幹二郎 / 於 東京宝塚劇場



# 建礼門院

高倉天皇の后になったがために、実父の平清盛と義父の後白河法皇の不和対立に悩む徳子。その後、壇の浦で平家が滅亡したため、幼い安徳帝とともに入水するが、救いあげられる。命助かった徳子は剃髪して建礼門院となり、洛北大原の寂光院で念誦の日々を送る。そこへ法皇が訪れた。

101. **建礼門院 [ポスター]**

昭和46年6月3～29日 / 出演:中村歌右衛門、中村鴈治郎 / 於 中日劇場  
「建礼門院」は、中村歌右衛門に書きおろされた新作歌舞伎。昭和44年4月、歌舞伎座で初演。

102. **建礼門院 [ポスター]**

昭和60年1月3～27日 / 出演:若尾文子、緒形拳、北村和夫 / 於 日生劇場

103. **取材先の大原寂光院にて [写真パネル]**

昭和44年  
北條秀司、中村歌右衛門 ほか

104. **建礼門院 [舞台写真パネル]**

昭和44年4月  
(左)二世中村鴈治郎の後白河法皇、(右)中村歌右衛門の建礼門院

105. **建礼門院 [上演台本]**

平成7年11月1～25日 / 出演:中村歌右衛門、島田正吾、中村雀右衛門 / 於 歌舞伎座

106. **建礼門院 [チラシ]**

平成13年7月14日 / 出演:島田正吾 / 於 日本橋三越劇場

107. **建礼門院 [パンフレット]**

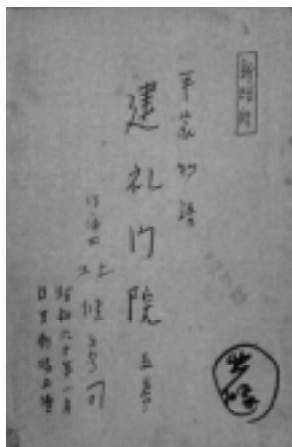
昭和60年1月3～27日 / 出演:若尾文子、緒形拳、北村和夫 / 於 日生劇場

108. **建礼門院 [上演台本]**

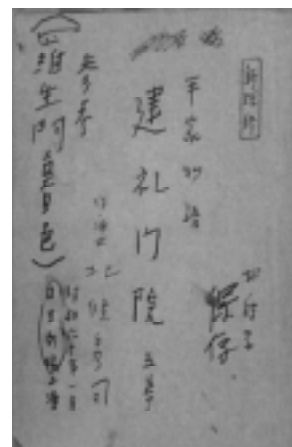
昭和60年1月3～27日 / 出演:若尾文子、緒形拳、北村和夫 / 於 日生劇場

109. **建礼門院 [上演台本]**

昭和60年1月3～27日 / 出演:若尾文子、緒形拳、北村和夫 / 於 日生劇場  
108. の台本の改訂稿。



資料108より



資料109より

## 信濃の一茶

不幸な生い立ちと貧乏暮らしから、五十路を過ぎるまで結婚したことの無い俳諧師小林一茶が、若いお君と初めて婚礼を挙げる。ようやく平安を得た一茶だったが、愛児と妻を続けざまに失い、悲嘆に暮れる。もう妻は持たぬと誓う一茶だったが、若いお直という娘に一目惚れし、嫁に迎える。秀句を連発する才人一茶も、実生活では色欲盛んな凡人だったという一茶像を描いた作品。

### 110. 信濃の一茶 [ポスター]

平成13年10月2～25日 / 出演: 緒形拳、水谷八重子、島田正吾 / 於 新橋演舞場  
「信濃の一茶」は、緒形拳に書き下ろした作品。北條秀司にとって最後の新作戯曲。平成5年3月、新橋演舞場で初演。

### 111. 「信濃の一茶」舞台稽古・楽屋風景 [写真パネル]

平成13年9月  
北條美智留氏撮影。

### 112. 信濃の一茶 [チラシ]

平成5年3月4～28日 / 出演: 緒形拳、池畑慎之介、樹木希林 / 於 新橋演舞場

### 113. 信濃の一茶 [自筆原稿]

(平成4年頃)

### 114. 信濃の一茶 [上演台本]

平成5年3月4～28日 / 出演: 緒形拳、池畑慎之介、樹木希林 / 於 新橋演舞場

### 115. 一茶ノート 5冊 [スクラップ帖]

(平成3年頃)  
「信濃の一茶」の創作過程、北條秀司の戯曲創作術がうかがえる資料。

## 井伊大老

安政6年の冬、国内中が揺れる中で、大老井伊直弼の身にも、暗殺の危機が迫ってくる。翌年の雛祭り前夜。直弼は久しぶりに愛妾お静の方のもとを訪れる。時ならぬ春の雪をめでながら、酒を汲みかわしてしみじみと語りあった。自らの運命を予見していた直弼は、そのひとときを、心から愛おしむのだった。その翌日、直弼は桜田門外において暗殺される。

### 116. 井伊大老 / 牛殺し [ポスター]

昭和28年10月2～26日 / 出演: 辰巳柳太郎、島田正吾、香川桂子 / 於 明治座  
「井伊大老」は辰巳柳太郎、「牛殺し」は島田正吾のために書き下ろした作品。昭和28年9月、京都南座で初演。

### 117. 大老 [ポスター]

昭和45年11月5～27日 / 出演: 松本幸四郎、河原崎国太郎 / 於 国立劇場  
歌舞伎版「井伊大老」を改題・長篇化した作品。

### 118. お静の方 - 井伊大老の側室 - [ポスター]

昭和51年6月3～27日 / 出演: 中村歌右衛門、二世中村鴈治郎 / 於 中日劇場  
解説は117. を参照

119. **井伊大老 [舞台写真パネル]**  
昭和28年9月  
辰巳柳太郎の井伊直弼
120. **ラジオドラマ「井伊大老」放送風景 [写真パネル]**  
昭和28年2月  
(左より)団伊玖磨、北條秀司、永田靖、松本克平、青山杉作、滝沢修、千田是也、マス・太田、宇野重吉、中村伸郎 / 昭和28年2月4日から、各週水曜日に約1時間ずつ、4週にわたって放送された。
121. **雪の雛 [自筆原稿]**  
昭和50年12月2～25日 / 出演: 中村吉右衛門、坂東玉三郎、中村又五郎 / 於 帝国劇場  
歌舞伎版「井伊大老」を改題・短篇化した作品。
122. **井伊大老 [上演台本]**  
平成6年4月2～26日 / 出演: 中村吉右衛門、中村雀右衛門、中村梅玉 / 於 歌舞伎座
123. **井伊大老 [舞台写真アルバム]**  
昭和28年9月 / 出演: 辰巳柳太郎、香川桂子、島田正吾 / 於 京都南座
124. **井伊大老ノ牛殺し [パンフレット]**  
昭和28年10月2日～26日 / 出演: 辰巳柳太郎、島田正吾、香川桂子 / 於 明治座  
解説は116. を参照。
125. **井伊大老ノ牛殺し [ポスター]**  
昭和28年10月2～26日 / 出演: 辰巳柳太郎、島田正吾、香川桂子 / 於 明治座  
解説は116. を参照。
126. **井伊大老 [チラシ]**  
平成16年10月2～26日 / 出演: 松本幸四郎、中村雀右衛門、中村梅玉 / 於 歌舞伎座

## 王将

大阪天王寺の長屋に住む草履職人の坂田三吉は、将棋の才能を生かして関西名人と称されるまでに出世する。しかし周囲の無責任なおだてにのった三吉の天下は長く続かず、やがて没落。昔の長屋に戻って一生を終える。将棋の名人坂田三吉の一代記。

127. **王将 [映画ポスター]**  
昭和23年10月18日 / 出演: 阪東妻三郎、水戸光子、滝沢修  
大映京都、伊藤大輔脚本・監督。
128. **王将 [ポスター]**  
昭和53年1月10～22日 / 出演: 緒形拳、岩本多代、五味多恵子 / 於 紀伊国屋ホール
129. **王将 [映画ポスター]**  
昭和48年5月19日 / 出演: 勝新太郎、中村玉緒、音無美紀子  
東宝映画、笠原良三脚本、堀川弘道監督。
130. **王将 [舞台写真パネル]**  
昭和22年6月  
辰巳柳太郎の坂田三吉

131. **王将 [舞台写真パネル]**

昭和62年8月  
緒形拳の坂田三吉 ほか

132. **王将 [パンフレット]**

平成11年5月29～30日 / 出演: 島田正吾 / 於 新橋演舞場  
島田正吾がひとり芝居で、親友辰巳柳太郎の当たり役に挑戦した。93歳という高齢での舞台だったため、話題となった。

133. **王将 [チラシ]**

平成5年3月5～28日 / 出演: 笑福亭鶴瓶、波乃久里子、安井昌二 / 於 大阪中座

134. **王将 [チラシ]**

平成12年2月5～13日 / 出演: 板尾創路、片桐はいり、西牟田恵、宮藤官九郎 / 於 下北沢本多劇場  
松尾スズキ演出。今を時めく、宮藤官九郎が出演した。

135. **王将 [放送台本]**

昭和55年1月6日 / 出演: 森繁久彌、曾我廼家鶴蝶、赤木春江、芦屋雁之助  
全2話。第1話「王将 二つの王将」の台本。第2話は「王将 たそがれの王将」と題され、同年1月13日に放送。関西テレビ制作、山本隆則脚本、森繁久彌演出。

136. **王将 [上演台本]**

昭和44年11月1～26日 / 出演: 辰巳柳太郎、香川桂子、吉村美紀 / 於 名古屋御園座

137. **王将一代 [上演台本]**

昭和36年2月1～26日 / 出演: 辰巳柳太郎、外崎恵美子、二葉早苗 / 於 明治座  
「王将」3部作を、通し狂言に仕立てた台本。

138. **将棋名人寄せ書き色紙**

昭和33年2月12日  
北條秀司は、日本将棋連盟から名誉3段の位を贈られている。「王将」の出現によって、敗戦後の国民に将棋熱を再燃させた功績が認められたためである。「王将」は3部作ゆえ、1部1段の勘定で、3段となった。色紙はその祝宴で署名されたもの。

139. **将棋名誉四段免状**

昭和38年3月3日  
名誉3段を贈られた後、村田英雄が唄った歌謡曲「王将」が大ヒットしたため、その祝いに日本将棋連盟から1段を追贈され名誉4段となった。



資料132より



資料136より

# 北條秀司作品初演年表

上演年月	作品名
昭和12年	1月 表彰式前後
	11月 華やかな夜景
昭和13年	3月 屋根裏の弁護士
	7月 豪雨
	11月 愉快的先生達
昭和14年	9月 ナリン殿下
昭和15年	1月 閣下
	6月 丸の内仲通り
	7月 姉
	10月 天高き日
	12月 しぶとい女
昭和16年	1月 おふくろ
	2月 戦陣訓
	2月 北国日和
	3月 機場
	4月 ある日の隣組
	7月 海女
	12月 寮母
昭和17年	1月 高梁風 - 「天高き日」続編 -
	4月 丹那隧道
	4月 妻
	4月 解氷期
	10月 東宮大佐
	10月 山彦
	12月 風雪二十年 - 或る海軍武官の半生 -
昭和18年	4月 恩義
	4月 山がら物語
	7月 マニラ亭
	8月 高砂
	9月 ビハリ・ボース夫妻
	10月 鬼の湯
	12月 軍属
	12月 だんじり囃子
昭和19年	8月 波止場の風
	8月 雨後
	10月 山の鶯
昭和20年	11月 高原日和
昭和21年	4月 女ありけり
	6月 ぼんぼん
	11月 恋文
	12月 歳月
昭和22年	6月 王将 第1部
昭和23年	6月 文楽
	10月 果実
	12月 終列車の客
昭和24年	8月 冷凍部隊
昭和25年	1月 王将 第2部
	5月 防風林
	11月 王将 第3部
昭和26年	10月 霧の音
昭和27年	6月 女将
	7月 狐と笛吹き - 「今昔物語」より -
	11月 土砂降り
昭和28年	1月 山霧の深い晩
	2月 麦踏み
	5月 姥子の湯
	6月 向日葵
	7月 浮舟 - 源氏物語 -
	8月 生霊
昭和28年	9月 井伊大老
	10月 牛殺し
	11月 芦刈
	11月 鬼火
昭和29年	1月 阿波狸
	4月 初松魚
	7月 空蝉 - 源氏物語 -
	10月 司法権 - 児島大審院長 -
	11月 波の鼓 - 近松浄瑠璃より -
昭和30年	2月 妄執 - 六条御息所 -
	4月 みちのくの祭り
	10月 山鳩
	11月 末摘花 - 「源氏物語」より -
	11月 太夫さん
昭和31年	2月 薄雪太夫
	3月 井伊大老 短修・歌舞伎版
	4月 片恋
	8月 お岩と伊右衛門
	9月 いとはん
	11月 智恵子抄 - 高村光太郎作品より -
	12月 狐と笛吹き<舞踊劇> - 「今昔物語」より -
昭和32年	1月 穂高
	2月 明石の姫 - 「源氏物語」より -
	3月 好色一代男
	4月 生々流転
	4月 いとはん
	8月 秋草物語
	10月 続明石の姫 - 「源氏物語」より -
	12月 佃の渡し
昭和33年	2月 おこんの初恋
	4月 うきくさ艸子
	5月 四十雀
	5月 顔役
	9月 芦の笛
	9月 夜な夜な中納言
	9月 花影抄
	10月 白鳥の死 - 公爵近衛文麿 -
	10月 天地開闢
	11月 葛の葉
	11月 清水坂
	11月 浅間の殿様 文楽人形劇
昭和34年	1月 雪手前
	2月 松川事件
	3月 恋河童
	5月 祇園囃子
	5月 東京繁昌記
	5月 天守閣絵巻
	6月 ヒモ
	6月 落葉の宮 - 「源氏物語」より -
	7月 浅間の殿様 宝塚歌劇
	9月 女剣劇朝霧一座
	10月 帰去来
	10月 手術
昭和35年	1月 妹背
	2月 葛西橋
	2月 燃える氷河 - グランド・ミュージカル -
	4月 八重山の歌
	4月 京舞
	5月 好色一代男

# 北條秀司作品初演年表

昭和35年	6月 おらんだ狐	昭和41年	6月 仇ゆめ
	7月 百花園裏		10月 夜明け
	9月 浮寝鳥		11月 明治の雪 - 樋口一葉の生涯 -
	9月 物いわぬ雲		11月 白鷺屏風
	9月 比叡嵐し	昭和42年	5月 若葉源氏
	10月 江戸紫 - 清元お葉と延壽 -		6月 花炎 - 和泉式部情史 -
	11月 浅間大名		10月 美しき落日 - 米内と鈴木 -
	11月 船場の鬼		11月 秋 - ウィーンの森 -
	11月 油屋おしか 舞踊劇	昭和43年	3月 寝白粉
	12月 黄塵 - 石原莞爾 -		4月 浅間追分
昭和36年	1月 朧夜源氏 - ミュージカル・プレイ -		10月 雪小袖
	1月 狐狸狐狸ばなし		11月 おばこ
	2月 娼婦マリ	昭和44年	3月 津軽の旅人
	3月 好色西遊記		4月 建礼門院
	3月 うたかた		9月 玉菊燈籠
	4月 花袖太夫		9月 さまようお夏
	5月 紙屋治兵衛 - 「心中天網島」より -		10月 西鶴一代男
	6月 雪よりも白からん		11月 女優 - 松井須磨子の生涯 -
	7月 妖刃	昭和45年	4月 千利休
	8月 伊左衛門		9月 鳥獣戯画絵巻
	9月 楽天地裏		11月 都鳥
	9月 好色あんぼんたん		11月 大老
	9月 光源氏と藤壺	昭和46年	1月 梅ごよみ
	9月 春雅と鬼		6月 恋の八汐路 - お夏清十郎の物語 -
	10月 アリラン軒		10月 源氏物語
	10月 梅坊主	昭和47年	4月 雪しまぎ
	10月 剣豪と牡丹餅 - グランド・ミュージカル -		4月 北條政子
	11月 氷雨		9月 女親分
	11月 おもかげ曾我		10月 氷河
	12月 堅田心中	昭和48年	3月 江戸の花 - め組の喧嘩 -
昭和37年	2月 油屋お鹿		6月 奥の細道
	6月 堀江川	昭和49年	1月 待乳山
	6月 加茂川染		5月 春日局
	10月 沙羅の花	昭和50年	3月 伽羅のゆめ
	10月 西陣息子		4月 露のいのち
	10月 心中紙屋川	昭和51年	6月 お静の方 - 井伊大老の側室 -
	11月 文の助茶屋	昭和52年	1月 朱雀門の鬼
昭和38年	1月 雪しぐれ		1月 旅役者お梅
	4月 お初天神		4月 花のゆくえ - 世阿弥 -
	4月 光源氏をめぐる		11月 祇園の女
	6月 祇園祭	昭和53年	1月 現代訳源氏物語
	10月 吉野狐		1月 辰巳富士
	11月 浮名屏風		11月 六條御息所
昭和39年	3月 花の名残り	昭和54年	4月 祭りの笛
	3月 祝歌 - 舞踊詩 -		9月 雪の華
	7月 道草	昭和55年	11月 一葉
	9月 十七夜	昭和56年	2月 花魁草
	11月 深川年増		10月 おちよぼ
昭和40年	1月 当世立志美談	昭和57年	4月 浄土曼陀羅
	1月 朧夜ばなし		5月 淀君情史
	2月 うすゆき川	昭和59年	5月 はりませ屏風
	4月 源氏物語 - 匂宮の巻 -	昭和62年	2月 口上 - 梅の春新派百年 -
	10月 風の鶏	平成5年	3月 信濃の一茶
昭和41年	2月 通天閣		
	6月 若き日の旅		
	6月 修羅		
	6月 ゆく春の殺陣		
	6月 白粉花		
	6月 雪の夜の殺陣		

## < 展示スナップ写真 >

- ・宝塚出演者とのスナップ (3 枚)
- ・こゆるぎ座の舞台写真 (2 枚)
- ・花柳章太郎と北條氏 - 佃の渡しにて - (3 枚)
- ・京塚昌子の末摘花 (3 枚)
- ・勘三郎と歌右衛門 - 末摘花 - (2 枚)
- ・将棋 3 段をもらった記念会 (1 枚)



北條秀司氏影

## 参考文献

- 大木豊著『あの舞台この舞台』劇評社、1955  
大木豊著『戦後新作戯曲事典』青蛙房、1960  
『長谷川一夫 舞台写真大集』東宝株式会社演劇部、1971  
北條秀司編著『北條秀司劇作史』日本放送出版協会、1974  
北條秀司著『わが歳月 終戦まで』日本放送出版協会、1981  
『こゆるぎ座四十年 1946年～1985年』劇団こゆるぎ座、1985  
北條秀司著『演劇太平記(一)～(六)』毎日新聞社、1985～1991  
「北條秀司自叙年譜」私家版、1987  
新国記録保存会編『新国劇七十年栄光の記録』新国記録保存会、1988  
シーグ社出版株式会社編『花顔 花柳章太郎』京都書院、1991  
『歌舞伎座百年史 資料篇』松竹・歌舞伎座、1995  
都市出版編集『新橋と演舞場の七十年』新橋演舞場、1996  
湘南近代文化研究会編『北條秀司創作戯曲上演年表・年譜・編著作一覧』北條秀司碑建立委員会、2002

## 『北條秀司の舞台』記念トークイベント

2004年11月3日(祝・水)13:30～15:30(開場12:30)

場所:松前記念館講堂(地下1階) 入場無料

<内容> 上演作品の紹介と解説/北條美智留氏・緒形拳氏を囲んでのトーク



主催：東海大学附属図書館・学園史資料センター

協力：松竹株式会社・社団法人日本俳優協会・東宝株式会社

西川流三世家元西川右近・緒形拳事務所・小田原市立図書館

発行日	2004年11月1日
印刷	教育支援センター 印刷業務課
発行所	東海大学附属図書館
	〒259-1292 平塚市北金目 1117
	TEL 0463-58-1211 (代)